

1 研究主題等について

(1) 研究主題

知識・技能の定着を基盤とした、児童の深い学びの実現

～学習活動や学習の振り返りで自分の考えを表現することを通して～

(2) 研究主題設定の理由

変化の激しいこれからの社会を生き抜くために必要とされる資質・能力を、西中学校区では、「進んで考える力」「伝える力」「振り返る力」とした。これらの資質・能力を児童に身に付けさせるためには、児童に基礎的基本的な知識・技能を付けさせることはもとより、習得した知識・技能を活用し、対話的な活動を通して学びを深めながら、主体的に課題を解決しようとする力を付けていくことが求められる。

昨年度、本校では「知識・技能の定着を基盤とした、児童の主体的な学びの創造 ～文章を音読することと自分の考えを表現することを通して～」を研究主題とし、一昨年度の成果や課題、西中校区での共通の取組、さらに「学びの変革」アクション・プランの全県展開を踏まえつつ、国語科と総合的な学習の時間を中心に、「見通し」「協働」「振り返り」を軸として単元開発に取り組んできた。また、各教科等において基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせることに重点を置き、その一環として組織的かつ継続的に音読指導に取り組むとともに、知識や技能を効果的に活用したさらなる主体的な深い学びの実現を目指してきた。加えて、カリキュラム・マネジメントの視点から、国語科や総合的な学習の時間を中心に各教科等とNIEとの関連を図り、児童の語彙力を高め豊かな表現力を身に付けさせ、自分の考え、自分自身のことや自分の夢を堂々と表現できる児童の育成を目指し研究に取り組んだ。その結果、1月実施の標準学力調査(CRT)では、基礎的基本的な知識・技能を問う問題において、正答率30%以下の児童の延べ人数は全校で約4%であり、4月に実施された学力調査(NRT)に比べると、半数ほど減った。また、児童は、理由を添えながら自分の考えを述べたり、友達と協働的に考えたりすることを通して、自他の考え方の良さや自己の学びの深まりを自覚することができつつある。

しかし、今年度の取組について実施したアンケートの結果、学習の振り返りが十分でなく、児童が自身の学習のメタ認知が不十分であることや、自分の考えをもち、進んで書いたり発言したりしようとする児童が少ないことが課題として明確になってきた。これは、振り返りの視点が不明確であったり、学習の深まりが不十分であったりすることが原因であると考えられる。また、基礎的基本的な知識・技能が確実に定着していない児童もおり、学級全体の課題としての手立てが必要である。

各教科等の単元や授業中に、視点を明確にした学習の振り返りを確実に位置づけることで充実させ、児童に学習成果のメタ認知をさせることで、基礎的基本的な知識・技能を定着させるとともに、さらに深い学びを実現していかなければならない。

そこで本年度は、昨年度の成果と課題を踏まえ、引き続き各教科等における基礎的基本的

的な知識・技能の定着に重点を置きつつ、単元の終末や場合によっては授業中の振り返りを充実させることで、国語科を中心に、児童の主体的で対話的な深い学びの創造を目指していく。また、NIEにおいても、国語科を中心として各教科等との関連を図り、児童の語彙力を高め豊かな表現力を身に付けさせ、身の回りや社会の出来事等についての自分の考えや自分の夢を、自信をもって表現できる児童の育成を目指していく。そして、このような取組を通して、西中校区で考える資質・能力「進んで考える力」「伝える力」「振り返る力」を児童に付けていく。

(3) 研究仮説

国語科を中心に各教科等の学習において基礎的基本的な知識・技能の定着を図り、自分の考えを表現させたり振り返りを充実させたりする学習活動を、「書くこと」を中心に行うことにより、児童は、深い学びを実現し、自分の考えを進んで発信しようとする意欲を養うことができるだろう。

(4) 研究内容

- ① 基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるとともに、西小学びのスタイルの中の「振り返り」を特に重点的に行う。
 - ・ 朝の帯タイムを活用し、基礎的基本的な知識・技能を習得させる。
 - ・ 学習の「振り返り」を意識した授業づくりをし、教科書教材での学びが、その教科の単元学習のほか、他教科等での活用にもつながるような取組を行う。
- ② 文章を書くことを重視した授業づくりを行う。
 - ・ 国語科で、「書くこと」を意識した授業づくりを行う。また、国語科「書くこと」において学習したことを使って、他の教科等でも文章を書かせるようにする。
 - ・ 定期的に（学期に1回程度）、テーマを決めて児童に作文を書かせる。児童に力を付けるとともに教員の研修に資することができるよう、学年間で交換して添削する。テーマは、カリキュラム・マネジメントの観点から、年間指導計画を参考にして決める。
 - ・ 教科書教材や新聞記事の音読、記事に使われている語句の意味調べをすることにより、言葉に興味をもたせ、児童の語彙力を高めるとともに、表現力を身に付けさせる。
- ③ NIEの質の向上を目指した取組を行う。
 - ・ 国語科においてNIEを取り入れ、意見や情報を発信することで、児童に表現力を付けさせる。
 - ・ 校内掲示、応募により児童の考えを広め、発信する場を設ける。

2 検証計画について

(1) 検証の視点

- ① 基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせ、「課題発見・解決学習」に効果的に活用させる授業構成になっていたか。
- ② 単元の最後または授業中に振り返りを充実させることができたか。
- ③ 新聞記事を引用した単元構成を組むなど、国語科を中心として各教科等とNIEを関連

させた授業づくりを行い、定期的に自分の考えを書かせたり、発信させたりすることができたか。

(2) 検証の指標

- ① 単元テストの平均正答率 80%以上の児童が学級で 80%以上、50%未満の児童が学級で 10%未満。

CRT（標準学力調査）の基礎的基本的な問題において国語科・算数科・理科の全国平均を上回った児童の割合 70%以上。

また、CRT「書くこと」の問題において、全国平均を5ポイント以上上回る。

- ② 教師の授業の振り返りチェックシート項目「授業中や単元の終末に、学習内容や自分の学び、考えについて文章で記述させた。」において、肯定的評価の割合が 80%以上。
- ③ 国語科及び総合的な学習の時間と NIE の関連を図り、毎学期 1 回以上自分の考えを文章に書かせ、各学年 1 回以上、学習の成果や情報を校外に発信した。

3 校内研修計画について

月 日		研修内容（授業者）
5 月	9 日	研究主題，研修推進計画
	8，9 日	特別支援研修（授業あり）
		NIE 研修
6 月	4 日	国語科サテライト研修 研究授業，協議会（6 年）
7 月		通級指導教室研修（ビデオ）
夏休み 7・8 月		指導案作成，理論研修， 全国学力学習状況調査の検証とそれに係る研修
9 月		国語科授業研究（年）
		国語科授業研究（年）
10 月	12 日	西中校区公開研究会
		海中校区公開研究会
		国語科授業研究（年）
11 月		NIE 授業参観，NIE 発表会
12 月		1～2 学期の研究のまとめ，今後に向けて
1 月		国語科授業研究（年）
		国語科授業研究（年）
2，3 月		研究のまとめ

※ 日時，担当学年は随時記入。

- ・研究授業と協議会
- ・研究授業事前研
- ・NIE 研修（研究授業，理論研修）
- ・体育科授業研究（4 年）